

研究計画名：大規模沖合養殖システム実用化研究

プラットフォーム名： Society5.0におけるファームコンプレックス
コンソーシアム名： 大規模沖合養殖システム実用化コンソーシアム
代表機関名： 日鉄エンジニアリング株式会社

計画の概要

- 目的：・日本の養殖業の更なる活性化
内容：・沖合域で大規模かつ省労力での生産を可能にする「大規模沖合養殖システム」と、
養殖手法の標準化・効率化を進める「最適生産管理システム」を開発・社会実装
・環境影響評価と適正な養殖密度推定を行うことのできるソフトウェアを開発・社会実装
目標：・生産規模拡大(25万ト_ン⇒250万ト_ン)、輸出拡大(1兆円以上)・輸入品奪還(1千億円)を通じて、
養殖生産者の所得向上に貢献(年収を倍増)(2040年迄)
・設備販売・サービス提供市場拡大(国内市場規模1.7兆円、海外市場規模2.4兆円)(2040年迄)
・持続可能な養殖に貢献

研究計画概要図

大型浮沈式生簀を中核とする**大型生簀システム**、プラットフォーム上の設備と給餌用海底配管からなる**自動給餌システム**、を主要構成要素とする。



【参画機関】 全12機関

- 《産》日鉄エンジニアリング(株)
日本水産(株)・弓ヶ浜水産(株)
黒瀬水産(株)・パナソニック(株)
《学》東京大学生産技術研究所
宮崎大学・公立鳥取環境大学
米子工業高等専門学校
《官》鳥取県栽培漁業センター
宮崎県水産試験場・宮崎県工業技術センター

【目指す姿】

- 増肉計数の低減・養殖魚成長促進
養殖漁場の拡大・養殖規模の拡大
生産性の向上(少人化・無人化)
安全性の向上(危険作業の機械化)
海洋環境の評価・改善 等
により 生産規模拡大(国内生産量: 25万ト_ン
⇒250万ト_ン)、養殖生産者の所得を2倍に